



# c / i / c / k !

## 情報処理センター通信

### CONTENTS

- ◆特集
  - ・東京学芸大学Webファイルシステム(Xythos)を使う .....1-2
- ◆情報処理センターレポート
  - ・WebClass講習会の開催報告 .....3-4
  - ・第11回国立大学法人情報系センター協議会参加報告 .....4
- ◆編集後記 .....4



### ◆特集 東京学芸大学Webファイルシステム(Xythos)を使う

安心！便利！

東京学芸大学Webファイルシステムは、Xythosを使った教育機関向けのWebベース文書管理システムです(以降記事中はXythosと表記します)。これを使うメリットは次のような点が挙げられます。

- ・大容量のファイル送信に有効
- ・メールでファイルそのものを送るよりも安全
- ・必要に応じ、ファイルにpwを付け、チケットと合わせるとpwの2重化が実現可能
- ・URLは知っている受信者しかアクセスできない(Google等の検索にはかからない)

東京学芸大学に在籍する教職員・学生であれば利用できます。グループでのファイル共有や、アクセス権のない方(例えば学外の共同研究者など)にも指定ファイルを送ることができます。

### 【 I . 大きなファイルや複数のファイルを送る場合】

#### 1. フォルダごとzipで圧縮

ファイルサイズの大きいものはzipファイルに圧縮して送ると良いです。また、複数のファイルを送る場合は一つのフォルダに纏め、同様に圧縮してフォルダごと送るとアップロード・ダウンロードで手間が省けます。

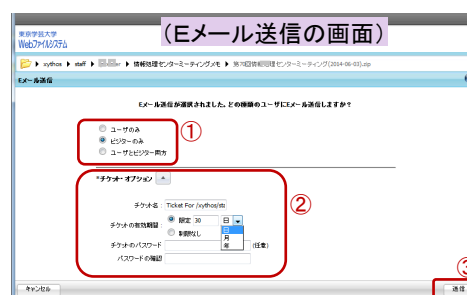
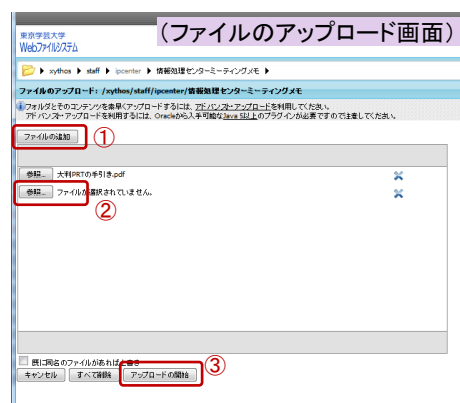
#### 2. Xythosにファイルをアップロード

ファイルのアップロード画面(右図)で「ファイルの追加」①をクリックし、「参照」②をクリックするとファイル選択画面が開きますので、ファイルを選択します。アップロードするファイルが揃ったら「アップロードの開始」③をクリックしてXythosにファイルをアップロードします。

#### 3. Emailでの送信

Xythosファイルリストから送信ファイルを指定し、Eメールをクリックすると右図の設定画面になります。

送信先がビジターの場合(Eメール送信の画面、①)は、チケットオプションを指定(同、②)して、有効期限、パスワードの設定を行うことでセキュリティが高まります。③の送信をクリックするとリンク先のURLが表示されます。



#### 4. ダウンロード先のURLをメール等で送信

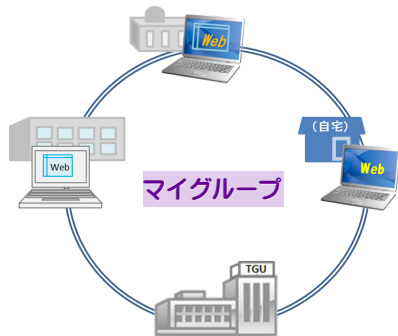
#### 5. 別便でファイルpwやチケットの送信

ダウンロード先のURL と ファイルパスワードを別便で送ることでセキュリティ上より安心です。

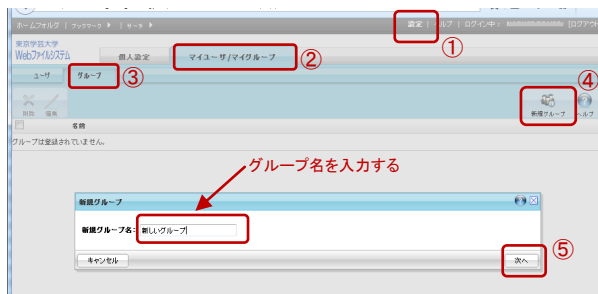
## 【Ⅱ. グループでファイル等を共有する場合】

グループでファイル(フォルダ)を共有したい場合は「マイグループ」機能で行えます。

グループのメンバー構成がポータルユーザに限定した場合には学内から情報が漏れる可能性が低くなりセキュリティ面で有効と云えます。

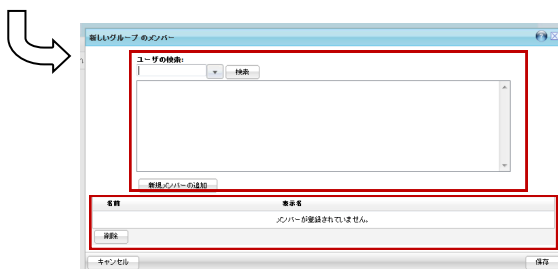


### 1. マイグループの登録



メインメニューの「設定」①をクリックします。

「マイユーザ/マイグループ」タブ②を開き、「グループ」タブ③をクリックします。新しくグループを作成するため「新規グループ」④をクリックして新規グループ名を入力し「次へ」⑤をクリックします。



新しく作成したグループへの参加メンバーを登録する画面が表示されます。

上段には登録するメンバーの検索画面、下段には登録メンバーの表示画面で構成されています。

メンバーの追加登録もこの画面にて行えます。

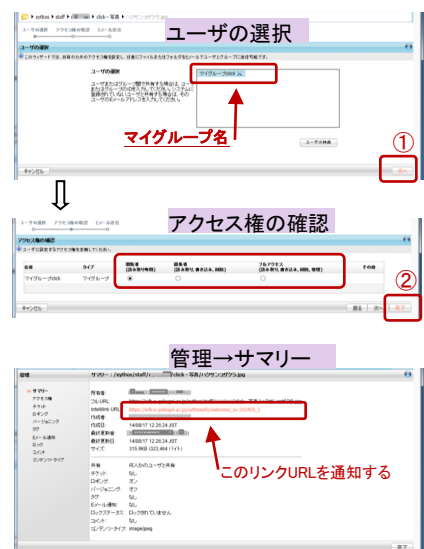
### 2. ファイルのグループ指定方法

ファイルをグループメンバーと共有するには、Xyθοςファイルリストからファイルを選んで右クリックし表示されるメニューから「共有」をクリックすると右図の「ユーザの選択」画面が表示されます。

共有先のマイグループ名を指定し、「次へ」①をクリックすると「アクセス権の確認」画面が表示されます。アクセス権を設定して「完了」②をクリックするとグループの指定が完了し、ファイルリスト画面に戻ります。

ファイルのグループ指定が済んだら、マイグループの各メンバーにリンクURLを、メールやポータルメッセージで通知することで、各メンバーは、そのURLからファイルをダウンロードできます。

リンクURLは、同じようにファイルリストからファイルを選び右クリックし、メニューから「管理」>「サマリー」をクリックすると右図の「サマリー」画面が表示され、リンクURLが得られます。



おつかれサマー!

詳しい操作手順は情報処理センターHPのマニュアル集に在る“[Xyθος簡易操作マニュアル](http://local.u-gakugei.ac.jp/~ipcenter/download/xythos-manual.pdf) (<http://local.u-gakugei.ac.jp/~ipcenter/download/xythos-manual.pdf>)”をご参照ください。



## ◆ 情報処理センターレポート ◆

## ● WebClass講習会の開催報告

情報処理センター講習会を平成26年7月24日(木)と28日(月)に両日とも同じ内容で開催しました。今回のテーマは「WebClass講習会(eポートフォリオを活用した授業法) ～やりっぱなしの学びから何度も振り返る学びへ～」です。

WebClassは初めてだが、どんなものか、授業に活用する方法を考えてみたい、既に授業に使っているが更に活用したい、といった先生方計19名の参加がありました。

講習内容は、WebClassの機能のうち【会議室】【資料配布】【eポートフォリオ・コンテナ】を主として解説を行いながら実習形式で進め、先ず学生の立場で、続いて教員として操作体験し各機能の設定方法や授業で使用する資料の配布などを習得していただきました。

これまでの紙媒体による方法の良さを踏まえつつ、電子的にレポート課題を扱ったり、学生同士そして教員を交えて意見交換など即時的にコミュニケーションを図り、そのプロセスを残せることで何度も振り返る学びを支援するeポートフォリオを活用する方法を見出しただけだと思います。

情報処理センターでは、「簡単！できる！WebClass入門講習会」「WebClass講習会(eポートフォリオ機能活用編)」に続き、今回の「WebClass講習会(eポートフォリオを活用した授業法)」を開催しましたが、少しずつですが着実にeポートフォリオが浸透してきていると感じるところです。



## 参加者のご感想 [ご感想をお寄せいただき有り難うございます]

## 【学校教育学分野 腰越 滋 先生】

7月28日(月)実施の2014年度 第2回目のWebClass講習会に参加させて頂きました。WebClass自体の活用は、本学に導入当初から利用させて頂いてきてはありました。しかし自分の利用実態は、次の2点に特化される程に限られたものでもありました。

- ① ペーパーレス時代に少しでも対応・貢献すべく、PDF化した教材をアップロードしておいて、受講者自身にダウンロード・印刷してきて貰う。
- ② 演習などの授業で会議室を設けておき、各回の報告者に報告レジュメを授業前日までにアップロードしておいて貰い、当日印刷配布し、授業後は受講者間で共有する。

これら2点だけでも、大量の印刷から解放されたり、演習での報告内容を出席者だけではなく欠席者も後から共有できたりと、随分と助けられて参りました。しかし今回の講習では、eポートフォリオを活用した授業法を、森本先生から分かりやすく紹介・解説頂き、WebClassの進化と新たな発展的活用法を教えることができました。感謝申し上げる次第です。

特に感心したのは、ルーブリックで評価指標を設定しておき、受講者同士がpeer評価できる機能が、WebClassには備わっていることです。少人数の演習などで、この機能を活用してみたいと思いました。

的外れかも知れませんが、一点だけ疑問に感じたのは、200人を超えるような大人数授業では、ルーブリックによるpeer評価を実施し、それを丁寧に管理していこうとすると、運用のための労力が大きくなりすぎるのではないかということです。使用法に習熟していない自分の場合、大人数の授業では教材アップロードには利用しますが、運用に自信が持てないため、eポートフォリオの活用には至っておりません。結局コメントペーパーに記述してもらったペーパーを集め、その中から秀逸なものを、匿名にて次回授業冒頭で紹介しつつ自分のコメントをつけていくというアナログ式の方法を、現状でも続けています。

したがって、クラスサイズ、授業形式などに応じて、WebClassの各種機能の、よりベターでより適正な利用方法例などを、図式化してお教え頂けると、大変有り難く感じます。結局WebClassを活かすも殺すも、授業を運営する教員の力量の部分が大きいのだと思います。ですので、次回の講習会までには自分もeポートフォリオの理解を深めておきたいと考えます。



### 【理科教育学分野 中西 史 先生】

7月28日に開催された「eポートフォリオ」の講習会に参加しました。昨年度の講習会には残念ながら参加できず、教職実践演習の授業用に何度かトライしたものの、結局挫折。今回の講習会はとても楽しみにしていました。直前まで授業があり、慌てて駆けつけたところ会場はほぼ満席。「eポートフォリオ」に大きな期待を寄せている教員が多いことを実感しました。

講師の森本先生によるワークショップ形式の解説は非常に分かり易く、PC音痴の私でもなんとか使えそうな予感がしました。WebClassの「掲示板」でお互いの成果物をもとに意見交換をしたり、教員と他の学生とのやり取りを観るだけでも教育効果はあると思っていますが、「eポートフォリオ」では更に活発な学び合いが実現できると感じました。今年度秋学期の教職実践演習で活用してみたいと思います。活用事例報告会も企画していただけることを期待しています。

### 【学術情報課 眞崎 光司 様】

これまではWebClassシステムをアンケートにしか利用したことがなかったので、授業における教員と学生のインタラクションや学生同士の学びあいを促進するツールとしての活用方法を学べたことがとても有意義でした。

今後、図書館の情報リテラシー講習会やライティングの個別相談のためのツールとして活用していきたいと思っています。

## ● 第11回国立大学法人情報系センター協議会参加報告

2014年6月26日から二日間、新潟大学において国立大学法人情報系センター協議会第11回総会が開催され、本学より宮寺センター長、センター専任所員の森本准教授、情報基盤課職員が参加しました。

初日はまず分科会が二部構成で行われ、第一部は「大学情報化戦略」というテーマで、北陸先端科学技術大学院大学より「情報系センターの役割の変化と今後」、奈良先端科学技術大学院大学より「平成生まれの理系大学院大学における情報化戦略の過去・現在・未来」、第二部では「先端的取組事例」というテーマで、群馬大学より「群馬大学におけるFTTD、及びプライベートクラウドの現状と課題」、長岡技術科学大学より「長岡技大・高専統合図書館システムについて」と各部で二つずつの報告がありました。その後、総会の第一部が開催され、開催校の新潟大学の挨拶の後、文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室長(長澤小洋氏)より閣議決定である「世界最先端IT国家創造宣言」を基に学術情報基盤整備の方針について、国立情報学研究所長(喜連川優氏)と同アーキテクチャ科学研究系特任教授(合田憲人氏)よりSINETを「共考共創」をモットーに進化させていく旨の講演がありました。

二日目は引き続き総会が第二部として開催され、議事後、幹事会・センター長懇談会・各地区幹事校が取りまとめた地区報告・分科会の各報告があり、意見交換や情報交換が行われました。

【参考】第11回国立大学法人情報系センター協議会(新潟大学)

<http://www.cais.niigata-u.ac.jp/nipc2014/>

## 編集後記

年々夏のゲリラ豪雨は激しさを増しているような感じがいたします。ゲリラ豪雨といえば雷が付き物ですが、雷サージという言葉をご存知でしょうか。簡単には落ちた雷の電流が電線などに辿ってきてしまうことです。これにより電化製品が故障したり最悪火災が発生してしまうことがあり、雷サージ対応の電源タップにて対策されている方もいらっしゃると思います。しかし安心してはいけません。電線の他にも電話線・テレビアンテナなど金属製のケーブルであれば雷サージの可能性はあります。大切なデータや機器を守る為に停電やサージ対策と併せてこまめなバックアップの取得をおすすめいたします。(竹)



国立大学法人 東京学芸大学

情報処理センター

☐TEL 042-329-7710 ☐FAX 042-329-7711

☐URL <http://www.u-gakugei.ac.jp/~ipcenter/>

☐E-mail [ipcenter@u-gakugei.ac.jp](mailto:ipcenter@u-gakugei.ac.jp)